



SHOUTOU-GAKUSYUIN
公益財団法人 松濤学舎
佐賀育英会

令和8年度 舎監通信

令和8年5月1日発行

松濤学舎HP



For your SHOTO Vol.3

文責 舎監 下村昌弘

がんばれニッポン —日本の未来は君たちの手に—

北京で開かれた人型ロボットが参加するハーフマラソン大会のニュース、見ましたか？ 驚きましたね。まるでターミネーター。1位の記録は50分26秒。ちなみに男子の世界記録は57分20秒。私のベストは1時間46分。それはどうでもいいとして…。25年の初回大会のタイムは2時間40分。わずか1年でなんと半分以下になっているではありませんか！



<https://www.asahi.com/articles/ASV4L74YPV4LUHB102FM.html>

その数か月前、中国の春節講演で民族舞踊やカンフーの型を人間と一緒に披露するロボット集団のニュースを見ていたので改めてびっくりしたところです。

しかし「驚き」とは「驚嘆」ではなくむしろ「驚愕」。愕然とした、ショック、えーっ！なんてこった、そんな動揺を伴った感覚でした。わかりますか？

日本でこの手の話題は聞いたことありませんでした。てっきりロボットの二足歩行は難しいものだと思っていました。せいぜいNHKの技術開発エンタメ番組「魔改造の夜」を見ながら、一流エンジニアたちがアイデアとテクニックを競う姿にハラハラドキドキ…。技術開発って難しいよなあと独り言を言うのが関の山でした…。

それにしても恐るべし中国。ここまで進んでいるのか。勝ち負けではないにしても、日本は随分水をあけられた、取り残されたような気分になってしまいました。皆さんはどうでしょうか？

中国はアメリカとの競争を念頭にハイテク分野の自立自強を掲げて26年～30年までの5か年計画で人型ロボットなどを重点的に強化する方針だそうです。

一概にこの特定分野だけを挙げて「負けるな日本！」と考えるのは早計かもしれませんが、尖がった部分を突き進む気概、“それおもしろいね”と創意工夫を楽しめる空気が今の日本に果たしてあるのか、不安な部分も感じなくはありません。

かつてジャパニアズナンバーワンと言われた日本が今なぜこんな状態になってしまったのでしょうか。

それは私たち世代のせいでもあるでしょう。それにもしかすると、日本はまだ日和見主義で横並びの考え方が強いのかもかもしれません。

自動車業界しかり。北京自動車ショー(4/24開幕)は賑やかです。展示会場の面積は前回の1.7倍、初公開の車両は5割増しといえます。中国は「EVが当たり前」の世界に突入していて、AI・自動運転・バッテリーの覇権を世界トップレベルで争っている…。

翻って日本は「多様な電動化」を掲げ、HV(ハイブリッド)の強みを活かしつつEV化を進めていますが、世界の潮流からすると遅れ気味。いろいろ事情はあるのですが、ソフトウェア主導の車づくり(SDV)での遅れは、今後の国際競争力に大きく影響するのではないかと感じています。

我々世代を棚に上げて申し訳ありません、まさに日本の将来は皆さんにかかっているのです！



<https://36kr.jp/459148/>

講演会に参加してみませんか？ —『学生との対話』の系譜の会—

名称: 国民文化講座(主催: 公益財団法人国民文化研究会) ※チラシは食堂入口WB前にあり

演題: 脳から見た日本精神 **講師**: 篠浦伸禎氏(元駒込病院脳神経外科部長)

※HPに「寮生活のひとコマ」と「舎監室の窓から」を随時更新掲載しています。(上記QRコードからぜひ覗いてみてください。)

日時: 令和8年5月17日(日) 14時~16時40分

場所: 日比谷図書文化館大ホール 会費: 学生無料

国民文化研究会は、保守系の文化・教育団体で歴史・伝統文化・倫理教育を重んじ、青年向けの研修活動を行っている社会教育団体です。「保守系団体」であるため、思想的に評価が分かれやすいところではあります。

ただ、小林秀雄『学生との対話』(新潮社)や福田恆存『学生たちへの特別講義 人間の生き方・ものの考え方』(文藝春秋)などはこの団体による講演記録をもとに編集された本ですが、一読に値するものがあります。今でもロングセラーです。

特定の思想に偏らないように留意しながら、選択肢の一つとして聴いてみるのもいいかもしれません。その際は他の立場の団体や考え方も併せて調べてみましょう。



日経新聞を読みませんか? -希望者は申し出を-

4月に入って個人的にお試して新聞を取っている人がいました。「電子版で読みたい」、「自分の部屋で読みたい」という声も幾人かの舎生から聞きましたので、新聞社と相談してみました。

提案①「希望者による購読」

10名以上の希望者があれば定価より10%割引の3,500円/ライセンス。個人に日経電子版のアカウントが付与されるので場所を選ばずどこでも閲覧が可能。

提案②「寮内のWi-Fiを接続したサービス」

ホテルに提供されているサービス形態と同じ。館内Wifiにアクセスすれば閲覧可能。費用は寮生全員分×500円/月。ただし形式は日経電子版(横読み)ではなく紙面ビューアー。

上記2案のうち興味・希望があれば舎監まで対面・メールで連絡してください。

4つの NEVER
高校在職中、折に触れて生徒の皆さんに語っていました。
Never give up! (あきらめるな)
Never say die! (弱音を吐くな)
Never be late! (遅刻をするな)
Never excuse yourself! (言い訳をするな)
令和の時代の皆さんにはどう響くでしょうか。
音読の口調が気持ちいいでしょ。特に最後のフレーズが!
それにしても言い訳をする人がなんと多いことか。「言い訳の多い人生を送ってきました」と言ったのは太宰治でしたっけ。あ、太宰の場合は「恥の多い生涯」か。

月	日	曜	行事等
5	9	土	山手一周ウォーク
5	10	日	英会話教室
5	12	火	佐賀育英会理事会(半蔵門)
5	14	木	自治会総会
5	17	日	探究教室←上級生も参加可。一年生は全員集合~!
5	24	日	英会話教室
5	26	火	佐賀県内高校長による松濤学舎見学会
5	27	水	佐賀育英会評議員会(半蔵門)
5	30	日	英会話・探究ともにこの日はありません

まもなく今年度第1回目の「希望図書購入調査」・「面談」を実施します! メールで連絡します。

【武蔵野の風】個別に出されたゴミ袋を市の指定大袋に入れ直す手伝いをしてくれた3年生がいる。上級生が手を汚す仕事を率先してやると下級生はついてくる。逆に下働きを下級生にやらせる集団は、下級生ははやく上級生になって手を抜きたいと考える▼ゴミ袋を小さめに出してくる人が増えた。玄関に干してある傘をたたんでくれる人がいる。門扉を開け閉めしてくれている人がいる。そんな素敵な人がいる松濤学舎はやはり大したものだと思う▼東京科学大学の入学式で田中雄二郎学長が語った話の抜粋を読んだ。「他者と積極的に関わってほしい」「社会の人々とともに」など人との紐帯を重視しているのが印象的だった▼人は他人の役に立った時に一番「気持ちいい」らしい。これは別の本で読んだ。私自身、人とのコミュニケーションが得意ではなく一人でいる方が好きなのだが、いつもこれじゃあいかんと反省している▼人のために役立つ。そんな人間にお互いなりたいたいものだ。私はもう歳だけ。(弓口)

※HPに「寮生活のひとコマ」と「舎監室の窓から」を随時更新掲載しています。(上記QRコードからぜひ覗いてみてください。)